

ええやん!



日本の文化・芸術に関する映像や画像などのデジタル・アーカイブ(記録保存)に取り組み立命館大学アート・リサーチセンター(京都市北区、以下「ARC」)が、江戸時代から友禅染などの染色に使用されてきた「型紙」のデータベース化に力を入れている。デジタル技術を駆使して、日本の伝統文化を現代に生かし、世界に発信する役割が期待される。(井上晋治)

伝統の文様 画像で保存

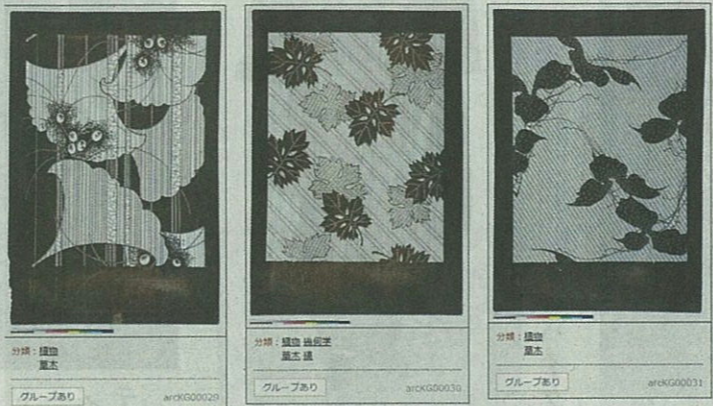
染め物の型紙は、和紙を柿渋で貼り合わせ、植物や動物などの精緻な文様を手彫りする。三重の伝統工芸、伊勢型紙が有名だ。ARCが型紙のデジタル・アーカイブ構築に着手したのは2008年。京都で80年余り前に友禅の型紙販売で起業し、現在は特殊印刷などを手がける会社「キョーテック」から、所蔵する型紙約1万8000枚の保存整理を相談されたことが、きっかけとなった。すでに浮世絵や古典籍などの画像のデジタル化を進めている

立命館大アート・リサーチセンター

たARCは、これらの型紙を2年がかりで撮影した。当初から携わった日本学術振興会特別研究員の加茂瑞穂さんは「ARCで修復も行い、朝から晩まで撮影が続けられた」とふり返る。その後、購入品や他機関の所蔵品も含め、ARCは現在までに約4万枚の型紙をデジタル化し、2014年から一部をデータベースで公開している。所有権の関係で閲覧制限はあるが、約860枚は一般の人たちも見ることができるとのことだ。これらの画像データを、現代

染色型紙4万枚 世界へ発信

国際的な発信力を高めるため、ARCは型紙データベースを「植物」「動物」「幾何学」など主題別に分類し、海外でもわかりやすい検索機能を設けている。型紙を所蔵する国内外の機関とも連携を図っている。昨年3月にはスイスのチューリヒ大で、型紙に関する国際シンポジウムが開かれ、ARCの取り組みも報告された。



公開の「型紙データベース」で「植物」を検索すると、多彩な植物文様を見ることができ(立命館大学アート・リサーチセンター提供) アーカイブ画像を基に生かした角川ソフィア文庫の「柳田国男コレクション」



「オランダでも型紙コレクションが見つかり、デザインが活用されている。国内外の研究機関との情報共有や連携を、一層進めていくのが課題だ」と話している。

ビーズがつなぐ国

色鮮やかな装飾品と身近なビーズは、7500年前にアフリカや西ア地域で誕生したと世界中に広まった。民族学博物館(大阪府吹田)の開館40周年記念特展「ビーズつなぐ、かみせるは、世界各国の300点を一堂に展示。小さな玉が持つ様々な美意識に迫っているイスラエルの洞窟で、かつて最古級のビーズ貝殻に穴をあけて作ったという。その後、ビーズの素材は、時代とともに歯などの動物素材から、祭儀の供物として用い(メキシコ)、国立民族学

再見 なにわ文化

肥田晴三

*「郷土研究 上方」

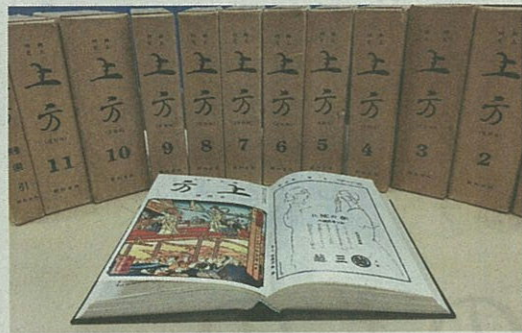
中学生の頃はね、「上方」が好きだったんだ。南木芳太郎さんからも、お手紙ももらってね。そやけどね、前にもお話ししましたけど、昭和20年(1945年)3月の空襲で、私の家も、父の蔵書も焼けてしまいました。上方も全巻そろってたはずですけど、もちろん全部、灰になりました。戦後は家の状況もすっかりすっ

病床 貪るように読んだ

かり変わってしまっていて、私自身も思春期やっただんでね、上方のことはすっかり忘れておりました。

それからずっと年月たつてからです。昭和33年春に病気になるりました。中学の頃から体は丈夫やなかったんですけど、放ったらかしてまして、非常に悪い状態で肺結核を発病しましてね、症状がものすごく進行してました。

阪神間の大きい療養所に1年ほどいたんですが、家に帰りつつね、帰りました。そ



1969年から71年にかけて発行された「上方」の復刻版

のあとずっと家に10年間。ずっと無為徒食ですわ。何もできなくて、病床についてました。読書だけしかできしませんでした。ほとんど出たことのないですわ。

家で寝ている時に、上方のことを思い出しました。子どもの頃、好きやったなあ、郷土研究のことも関心あったなあ、また読んでみたいなあ、

注1 その後、1969年から71年にかけて、新和出版社が上方全巻に別巻索引を加えた復刻版が発行された。